

2014年4月4日

一般社団法人日本技術者教育認定機構

## 2013年度認定審査サマリーレポート

JABEEの認定・審査は、正会員71専門学協会の協力を得て、15の分野別審査委員会による審議・調整に基づき実施されています。審査チームによるプログラムの審査結果は、分野別審査委員会での審議・調整後、認定・審査調整委員会において全体の審議、調整を行い「最終審査報告書」としてまとめられます。2013年度の審査の全過程と最終審査報告に基づき、認定会議において2013年度の認定を決定します。

### 1. 2013年度認定審査結果

#### (1) 結果概要

2013年度審査の結果、学士課程、修士課程を合わせて7教育機関の8プログラムが新規に認定され、認定継続審査、中間審査を含めると、44プログラムが認定されました。このうち、修士課程では2プログラムが新規に認定されました（建築系学士修士課程を含む）。2001年度に認定を開始してからの新規認定プログラムの累計は、169教育機関の474プログラムとなりました（図1）。この内95（56%）の教育機関では複数プログラムが認定されています。また、認定プログラムの修了生の累計は約20万人に達しています。認定プログラム数累計の教育機関別内訳は、国立大学（220）、公立大学（24）、私立大学（150）、高専（専攻科）（79）、大学校（1）となっています（表1）。分野ごとの認定プログラム数の累計は、機械（78）、土木（64）、電気・電子・情報通信（58）、工学〔融合複合、新領域〕（58）、化学（52）などとなっています（表2）。

審査の種別による割合は、認定の有効期間を継続するための認定継続審査が16%、新規審査が18%、中間審査が66%でした。なお、2008年度の認定プログラムより認定有効期間がそれまでの最大5年から最大6年に変更となったことにより、2013年度は認定継続審査が例年より大幅に少なく、結果として全体の審査件数も例年の半分以下となりました。

2013年度の審査は、約100名の審査員によって行われました。また、約20名の審査員候補者が、オブザーバーとして審査に参加しました。審査員・オブザーバーのうち産業界の経験者は約30名でした。的確な審査を実施するため、2013年度審査員に対する研修会を2回（1泊研修1回、日帰り研修1回）開催し、約90名が参加しました。また、審査チームを派遣する各学協会の主催により、審査員候補者の導入研修会（「審査講習会」）が5回開催され、その内3回は審査を予定しているプログラムに対する講習と併せて開催されました。

## (2) 新認定基準適用の状況

2012年度に改定された新基準の適用2年目となる2013年度は、45% (20) のプログラムが新基準を選択しました。内訳として、新規審査の100% (8)、認定継続審査の57% (4)、中間審査の28% (8) が新基準による審査を選択しました。新基準を選択したプログラムの割合は2012年度の審査から大きな変化はありませんでしたが、これは上述のように認定継続審査が例年より大幅に少なかった影響で、中間審査(前回審査と同じ基準を適用する傾向が強い)の比率が全体の約3分の2と極端に高くなったことによります。新規審査ではすべてのプログラムが新基準を選択しており、特に大きな混乱もなく、着実に新基準への移行が進んでいることが確認されました。

## (3) 審査スケジュールの短縮

受審プログラムからは、以前より、認定可否の結果が通知される時期及び技術士一次試験が免除された教育課程として官報へ掲載される時期が遅いため、改善してほしいとの要望を多数いただいております。認定可否の通知時期に関しては、プログラム修了生の卒業までに修了証を手渡したいとの強い希望が背景にあり、JABEEではこの要望にお応えするべく関係委員会で慎重に検討を行った結果、認定可否の決定時期を早めた審査スケジュールを2013年度の審査より適用することに決定しました。2013年度はその新スケジュールに従って審査を実施し、認定可否の内定通知を2月下旬に各受審プログラムに送付し(昨年度以前より約2ヶ月前倒し)、認定されたプログラムを3月上旬にJABEEのウェブサイトで公表しました。官報への掲載時期の早期化についても、上記の新スケジュールの適用を前提に文部科学省と調整した結果、2013年度の認定プログラムを掲載した官報が本年6月頃の発行を目標に準備されています(昨年度以前より約1年前倒し)。

## (4) 予備審査の状況

2013年度から「予備審査制度」の適用を開始しましたが、申請プログラムはありませんでした。この制度がまだ良く知られていないことも原因の一つであると考えられますので、今後広報活動に力を入れていくとともに、予備審査が認定を予定しているプログラムにとって魅力のある制度となるよう必要な見直しを行ってまいります。

## 2. 2014年度に向けて――斉審査方式の導入――

JABEEは、教育機関内の複数のプログラムを一斉に審査することが、受審プログラムの負荷を軽減し、かつ審査の質を高める上で望ましいと考え、実施のための具体的な検討を進めてきました。2013年度にその検討結果がほぼまとまり、2014年度より一部の受審校の複数プログラムの審査を「一斉審査方式」により実施することが決定しました。最終的には一斉審査方式を標準とする方向で、審査チームの編成方法や審査手順の改善、書類の整備等を行ってまいります。

### 3. その他の主要な活動

#### (1) ワークショップの開催

JABEE では本来の目的である「教育の質の向上」に資するための取り組みの一環として、技術者教育に関する種々のワークショップやシンポジウムの開催を充実していくこととし、2012年12月には「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」の第1回を公益社団法人日本工学教育協会と共同で開催しました。2013年度も引き続き同シリーズの第2回を2013年11月に、第3回を2014年3月にそれぞれ開催し、テーマとして「チームワーク力の育成に関する学習・教育到達目標の設定と達成度評価」を取り上げました。ワークショップでは多数の熱心な受講者の参加を得て、活発な討議が行われました。

2014年度も一層力を入れていく予定です。

#### (2) 国際協力

技術者の育成に積極的に取り組んでいるアジア諸国は、こぞって技術者教育認定団体を設立し、ワシントン協定への加盟の準備を進めています。その中で、インドネシア政府から日本政府に対して、同国に認定団体を設立して認定制度を立ち上げるための支援要請があり、JICA(国際協力機構)が2014年度から支援することになりました。JABEEは2005年に非英語圏から初めて正式加盟した実績をもとにJICAの事業に協力することになり、2013年10月から専務理事がJICAの個別専門家としてインドネシアに派遣されて支援事業立上げ準備作業を進めています。2014年11月以降にJICA技術協力プロジェクトが発足予定ですが、その後もJABEEは様々な形でプロジェクトに協力する方針です。また、インドネシアの代表的な大学が同国の認定団体設立の準備も兼ねて2014年秋にJABEEの審査を受けるべく準備中です。このプログラムが認定されるとJABEEにとって初めての海外認定となります。

#### (3) 技術士資格への啓発

JABEEは、日本の若い技術者が世界のエンジニアと肩を並べて働く時代を見越し、認定プログラムの修了者に技術士資格取得を奨励しております。

本年度、文部科学省はJABEEの修士課程認定プログラム修了者も技術士資格第一次試験免除とすることに決定しました。これによりJABEE認定修士課程プログラムの修了生全員が第一次試験免除の対象となりました。

JABEEは、できるだけ多くの認定プログラム修了生が第一次試験免除の特典を活用して技術士を目指すよう、認定プログラム修了から技術士第二次試験までの道りを解説したパンフレット「技術士への道」を日本技術士会と連携して作成し、ホームページに掲載しているほか、各教育機関に対し認定プログラム修了証とともに修了生に渡していただくようお願いしています。本年度、認定プログラム修了者の第二次試験合格状況をアップデートするとともに、なるべく若い内から技術士を目指してもらうよう、技術

士となるための経路をより分かりやすく解説しました。今後も引き続き、認定プログラムおよび修了生への啓発を進めます。

なお、海外からの留学生が帰国して専門技術者資格試験を受験する場合や、国内大学の卒業生が海外で就職する場合に、修了した学科がワシントン協定加盟団体、すなわち JABEE の認定プログラムであるかどうかとの問合せが増えています。国際的な専門技術者資格と高等教育の認定の動向にもより一層注視してゆきます。

#### (4) 自己評価

JABEE では受審プログラムに対して PDCA の改善サイクルに基づき教育プログラムの改善を求めているのと同様に、約 6 年ごとに自らを評価して改善の方針を立て、外部の有識者（外部評価委員会）に意見を仰いでいます。この「自己評価」は前回 2006 年に実施し、今回 2 回目を 2013 年度に実施しました。今後は外部評価委員会からいただいた意見を参考に、改善のための施策を実施していく予定です。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科、専攻やコースなどの総称です。

図 1 認定プログラム数と修了生数

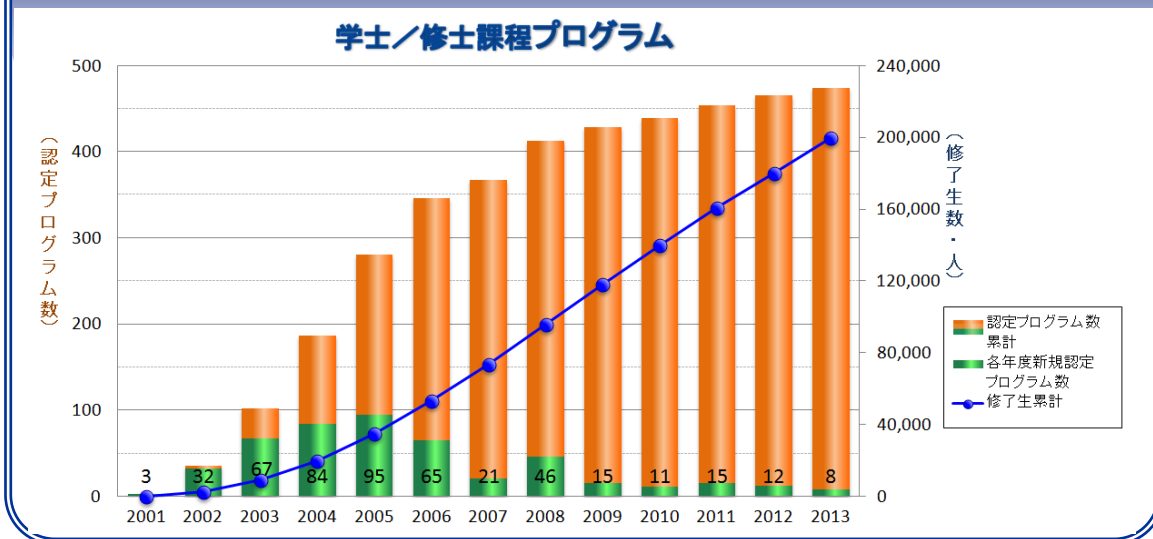


表 1 教育機関別認定プログラム数 [学士、修士] (2001-2013 累計)

	教育機関数	プログラム数
国立大学	54	220
公立大学	10	24
私立大学	54	150
高等専門学校(専攻科)	50	79
大学校	1	1
	169	474

表2 分野別認定プログラム数 [学士、修士] (2001-2013 累計)

分野	2001-2013 累計
化学および化学関連分野／化学及び関連のエンジニアリング分野	52
機械および機械関連分野／機械及び関連の工学分野	78
材料および材料関連分野／材料及び関連のエンジニアリング分野	13
地球・資源およびその関連分野／地球・資源及び関連のエンジニアリング分野	11
情報および情報関連分野	39
電気・電子・情報通信およびその関連分野／電子情報通信・コンピュータ及び関連の工学分野／電気・電子及び関連の工学分野	58
土木および土木関連分野／土木及び関連の工学分野	64
農業工学関連分野／農業工学及び関連のエンジニアリング分野	19
工学(融合複合・新領域)関連分野／工学(融合複合・新領域)及び関連のエンジニアリング分野	58
建築学および建築学関連分野／建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野	39
物理・応用物理学関連分野／物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	5
経営工学関連分野／経営工学及び関連のエンジニアリング分野	6
農学一般関連分野／農学一般及び関連のエンジニアリング分野	13
森林および森林関連分野／森林及び関連のエンジニアリング分野	5
環境工学およびその関連分野／環境工学及び関連のエンジニアリング分野	8
生物工学および生物工学関連分野／生物工学及び関連のエンジニアリング分野	6
総計	474

(注) 1. 情報および情報関連分野にはソウル協定対応の情報系6プログラムを含む。

2. 建築学および建築学関連分野／建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野には建築系学士修士課程(建築設計・計画系分野)の2プログラムを含む。